

- ▶ 多様な主体が参画する場合は、立場の違いはあっても、それを乗り越えることができるような意識醸成が重要

知恵袋 本音トークや徹底的な議論は合意形成の早道

⇒ **バスの運行組織の立ち上げから運営まで住民主導で実施[京都市]**

- ・バス事業者や専門家、事業主体である市民の会が勝手にバスのルートを設定してしまえば、住民からの同意が得られないばかりか、地域に根付いたコミュニティバスにはならない。しかし、地域の要求ばかりを聞いていたら、バスの運行はうまくいかない。
- ・そこで、京都市の醍醐地区の取組では、100回近く実施した勉強会や説明会などにおいて、ルート案等を各校区の住民と市民の会、学識者、事業者が一緒になって検討することで、各校区が納得のいくルートを設定することができた。

⇒ **行政のサポートを受けつつ住民主導によりデマンド交通を実現[山形市]**

- ・山形市の大郷明治地区では、昼間勉強会では伝えられない地域住民の本音を、専門家や行政に伝えることができる場として、勉強会の後に懇親会を開催した。
- ・懇親会の場で出た意見などを専門家が拾い上げ、行政も意見に対して真摯に対応したことで、三者の間に強い信頼関係が生まれ、スムーズな意見調整につながっていった。

知恵袋 各主体が役割分担して交渉ごとをスムーズに

⇒ **バスの運行組織の立ち上げから運営まで住民主導で実施[京都市]**

- ・京都市の醍醐地区の取組では、運賃収入ですべての経費を賄うことができず、地域からスポンサーを集めなければならなかった。
- ・そこで、地域の企業の協力を得るために、住民たちは、専門家といっしょ企業回りをする事となった。その際、同席した専門家が説得力ある説明を行ったことが、協賛金獲得に大きく寄与した。
- ・特に大口のスポンサーには、「バスの行き先表示や車内アナウンス自体が広告になる」ことを説得材料として活用し、このことが協賛金獲得に大きく寄与した。
- ・バス停の設置場所などで、地先の方から苦情があったが、「誰にお願いすれば、事が円滑に進むのか」をわかっている地元の自治町内会会長や女性会の方の人脈を活用することで、迅速にトラブルを解決することができた。

⇒ **行政のサポートを受けつつ住民主導によりデマンド交通を実現[山形市]**

- ・山形市の大郷明治地区では、病院や商業施設などの施設構内への乗り入れ交渉にあたり、住民から構成される運営協議会のメンバーだけではなく、市の職員も同行することで、「信用度」を高め、スムーズな交渉を行うことができた。